

「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに

挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗 第19回

男の子と女の子（その3）

口うるさく叱る、けど甘やかす

◆ウチは、厳しく叱ってます！

忘れ物はするし、話は聞いていない、周りにガラスがあっても暴れまわる、ものはすぐなくす、などママさんは日々、男の子の子育てにハラハラドキドキ奮闘されていることと思います。

女の子は、そういった気苦労がほとんどありません。男の子のママさんは、「この子を何とかしなくては！ 一人前の立派な大人に育てる責任が私にはある」と考え、寝ても覚めても口うるさく叱ります。そして、あれほど忘れ物をしないように何度も注意して釘を刺したのに、結局忘れ物をしてしまいます。「本当に、しょうがないなあ」と呆れ果て、でも「学校で困るだろう」と思い、忘れ物を届けてあげ、二度と繰り返さないように何度も注意して、再び厳しく叱ります。

一見これで良さそうに見えますが、今までこのやり方を繰り返してきて、忘れ物が改善されたでしょうか？ 効果が全くないですね。それではこれとすべて逆の行動を考えてみます。

息子の忘れ物が多い。



「今後、忘れ物してもお母さんは学校に届けないよ」と宣言する。



いつものように息子は忘れ物をする。



そのとき、お母さんは本当に学校に届けないし、いっさい叱りもしない。



本人は学校で困り、自分で何とかしなくてはと、初めて自分で考えるようになる。(※)

このように、忘れ物は、ママではなく本人の問題なので、一切関わらないことです。

◆自分の失敗は誰かのせい

この方法だと“自分の行動は自分で責任を取る”ということを学ぶことができます。ガミガミ怒りながらも、我が子が失敗したら結局はお母さんが何でも尻拭いしてあげ、忘れ物をしたら学校に届けてあげ、遅刻しそうになったら起こしてあげて車で学校まで送り、「これが最後だよ」と言いながら消しゴムや鉛筆をなくすと何度も買い与えるなど、自分のしたことに責任を持つということを教えてあげられない親御さんが多いように思います。このようにして育てられた子供は、大人になって「自分が悪いのではないか」と自分の方に矢印が向くのではなく、「他に犯人がいるはず」と、まず第三者に攻撃の視線を向け、他人のせいにして現実逃避する思考パターンになってしまいます。お子さんが寝坊したときに「何で起こしてくれなかったんだよ！」が口癖になっている家庭は要注意です。お母さんが起こすことが当然と思っているので、“自分の失敗は誰かのせい”という思考回路になっています。

審査で不合格になって道場に苦情を言いに来るママさん、試合で勝てなかったからと指導者に指導方法の変更を要求してくるパパさんなど、うまくいかなかったことを、まず自分や我が子の問題であると考えず、自分以外の誰かに問題があっとうまくいかないのだと他人への責任転嫁をしてしまう、将来そういう大人になってしまうのです。

しかしながら、私が前述(※)のようにアドバイスすると、「でも先生の言ったようにやってもうちの子にはムリですよ」とすぐに諦めるママさんがい

ます。しかし、今までママさんのやり方でうまくいかなかったのだし、今後も改善される見込みもないのですから、やってみる価値はあると思います。素直に他人のアドバイスを聞き入れることも大事ですね。

◆息子を一人の人間として敬意をもつ

“厳しくしつけるが、最後は助けてあげる”、表面上は厳しい口調で叱ったりしているご家庭にこのような現象が多いように感じられます。子供さんは自分の所有物でもないし自分より下の人間でもありません。対等な、一人の人間として尊重し尊敬し信頼していれば、上から目線で叱る必要もありません。この人は「自分でできる人」と考えれば、忘れ物をしたときの対処も自分でできるはずですから、お母さんがガミガミ叱ったり、学校に忘れ物を届けてあげる必要もないのです。

たとえば、お客様（赤の他人）が傘を置き忘れて帰ってしまったとき、「本当にいつも忘れ物するねー。何度言ったらわかるのかしら。ほんとにバカなんじゃないの？」とは言いません。「帰るときはもう晴れてましたものね。うっかりは誰でもよくありますよね。私もよくやります」のように言うのではないのでしょうか？ そのように言われれば、恐縮

し、素直に改善しようというものです。我が子をお客さんと思って、敬意を持って話すのです。

「口うるさく叱るが、結局は助ける」、この負のスパイラルを断ち切らないと大人になっても、他人のせいにする悪癖は治ることはありません。仕事で失敗すれば「担当者がしっかり説明してくれなかったから」などと他人のせいにするようになるでしょう。うまくいかないとき、まず自分に問題があるのではないかと考えられる人が、欠点を改善し成長できる人なのです。

「なんでお母さん起こしてくれなかったの、これじゃ遅刻じゃないか」これを幼稚園児が言ったのなら良いのですが、成人した息子が言っていたらもう取り返しがつきませんね

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。先代の病気をきっかけに養正館を継ぐ。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年全少5名入賞、2014年・2015年と2年連続で7名入賞、2016年5名入賞させ全国最多入賞道場となる。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。

日本空手道鴻志会空手道場養正館／静岡県沼津市本田町11-12



Column

全少戦士テレビCM撮影に臨む／JKFan編集部取材

勝又蒼唯さん(小2)、夜久修斗君(小5)の二人が、ある会社のテレビCMに起用され、朝8時に東京都内の某所にて撮影に臨みました。内容は、オンエアされるまで外部に漏れないように、というのがお約束なのだそうで、詳しくは書けないのが残念！

朝早く起き、5時過ぎにはお家を出たそうです。8時に指定されたスタジオに到着すると普通のお家。えっ！テレビ局のスタジオを想像していたので、逆にびっくり。家庭の中の一コマを撮影するために用意された場所なので、普通のお家を改造して撮影ができるようになっているというスタジオ。そして、監督さんはじめ、直接撮影に関わる人からメイクさん、衣装さん他、何十人ものスタッフさんにも圧倒されました。

二人の空手の格闘がメインという内容で、最初は殺陣師(たてし)と本誌連載の渡辺貴斗先生の2人で立ち回りの技の組み立てを考え、さらに、空手の動きにリアリティーをもたせるため、渡辺先生には撮影中も二人に付きっきりで全編に渡り技術指導もしていただくなど、朝から夜までかなり活躍していただきました。

お昼ご飯を短い時間で済ませ、少しの休憩を何度か挟みながら夜の8時まで撮影を敢行。二人はかなり疲れたと思

ますが、嫌な顔一つ見せず頑張り抜きました。撮影のスタッフの皆さんが、初めての仕事で完璧にやりきる姿に「なんてすごい子たちなんだ！」と終始驚いていました。

空手道の練習で鍛えた体力・精神力は、普通の小学生とは比べようもないことを証明してくれました。蒼唯さん、修斗君、本当にお疲れ様でした！ 渡辺先生、感謝です。



●夜久修斗(やく・しゅうと)
正武館／第16回全少5年男子形準優勝(右)
●勝又蒼唯(かつまた・あおい)
養正館／第16回全少2年女子形準優勝

関連
DVD
p148～

